

学校概要

創立 108 周年	学校長 齋藤 容二	副校長 中村 好宏	学期 2 学期制	児童・生徒数 308 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2		主な関係校: 宮田中学校、岩崎中学校		

学校教育目標

学校スローガン: 大好き かたぴら 輝く笑顔
 【知】自ら進んで学び、表現する子を育てます。
 【徳】互いに信頼し合って生きる子を育てます。
 【体】心も体も健康になる子を育てます。
 【公】帷子を愛し、帷子の未来を創る子を育てます。
 【開】どんな人とも豊かなコミュニケーションができる子を育てます。

学校の特徴

- 旧東海道沿いの保土谷宿に近く、また区の中核部にあり総合庁舎等の公共施設に隣接、さらに天王町商店街、松原商店街などがあり、商工業も盛んであるため、社会科、生活科、総合等の学習に生かすことができる。
- 桜ヶ丘と宮田山の溪口部で帷子川の本流と今井川との合流点にあり、川を起点とした自然に接することができる。
- 学区民は教育熱心で、学校に対する関心が高く、協力的である。
- 区内のAB研や研究大会が本校で開催されることが多く、職員が教育研究の最新情報に触れる機会に恵まれている。
- 素直な反面、受け身な傾向が見られ、学んだことを発信したり、感じたことを表現したりすることに課題がある。

学校経営中期取組目標

- 帷子の人々や身近な自然と豊かにかかわりながら、お互いのよさを認め合い、共に学べるようにします。
- わかる・できる・楽しい授業を通して、学ぶ喜びを感じ、一人ひとりの思いや願いを実現できるようにします。
- 様々な人々と接し、コミュニケーションを大切にしながら、自ら学び自分らしい生き方をたくましく切り拓くようにします。
- 心と体をすこやかにはぐくむようにします。

小中一貫教育の取組

宮田中学校	ブロック	宮田中学校、峯小学校、帷子小学校
9年間で育てる子ども像	9年間を通して豊かな感性とコミュニケーション能力を育てます。	
自校の具体的取組	道徳教育の一層の充実を図り、豊かな人権感覚を育む指導法の研究と研修を積み重ねます。外国語活動を中心に、豊かなかかわり合いを通してコミュニケーションを楽しむ児童を育てられるよう、よりよい支援・指導のあり方を研究します。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	指導目標を明確にもち、一人ひとりが主体的な学びができるための基礎的な学習の力を身につけられるようにする。	①基礎的学習の進め方を確認しながら、どの教科にも共通な授業のユニバーサルデザインを進める。②どの教科にも応用できる、考えたり、話し合ったり、発表したりする力については、教科を越えたカリキュラムマネジメントに取り組む。③学校図書司書を活用した、読書活動の活性化を進める。
豊かな心	全教育活動の場で、体験を通して道徳的価値にふれたり、肯定的理解や他者への共感的な気持ちをもったりしてよりよい生き方を探求するようにする。	①「かるがもコンサート」を秋に2日間実施する。本番までの学級や学年の仲間との協力、本番で、他学年の演奏の鑑賞を通して、同じ音楽を表現する喜びや、他者への共感的な気持ちを育てる。②全学年の縦割り活動による、さまざまな集会や全校遠足、運動会の縦割り競技等を通して異学年の交流を深めると同時に、高学年のリーダーシップを育てる。
健やかな体	集団と個の関係を理解し、共に高めあう体育科指導を推進し、運動特性に触れる楽しさや喜びを感じ、心豊かにして健やかな体、一層の体力向上を図る。	①体育時間の学習内容の時間的、質的両面の充実を図る。②栄養職員を中心とした授業や日常指導の中での食育を進める。③養護教諭や学校保健委員会が中心となって、心と身体の健康教育を進める。
確かな学力(外国語活動)	外国語活動の研究を進め、学習内容の工夫と評価規準の明確化で、わかる、できる、楽しい授業を展開し、コミュニケーション能力の向上を目指す。	①AET、IUIを効果的に活用した授業や、担任単独の授業実践を重ね、新指導要領実施に向けたYICAの充実を目指す。②異学年グループで様々なブースをまわる「英語村」を実施し、英語を通して、外国人も含めた様々な人とコミュニケーションをすることの楽しさを味わうようにさせる。③タイの小学校との交流(スカイプ、ビデオレター、招待)を行う。
人権教育	違いやよさを受容し合う学びにより、互いが大切な存在として認識できるようにする。振り返りを大切に、様々な機会を捉えて指導し、人権感覚を高められるようにする。	①外国籍や、外国につながる子供たちが多く在籍しているという現状から、お互いの人権を尊重する機会をカリキュラム全体に反映させる。②国際教室を中心に、日本語教育を進めると同時に相手の母国に対する子供たちの理解も深める機会を持つ。③障害のある児童も共に学ぶインクルーシブ教育の取組を進める。
特別支援教育	個の実態を的確に把握し、それぞれニーズに対応した個別指導計画を立て、組織的に行う。交流教育のめあてを明確にし、充実した学習活動を行う。	①一般学級に在籍する配慮を要する子供たちのコンサルテーションを実施。個々の特徴や障害への対処の仕方を知り、チームとして連携しながら日々の指導に生かす。②個別級の交流計画を充実させるとともに、個別級での学習環境や学習方法を一般級担任も学ぶことで、学校全体のインクルーシブ教育を展開する。
地域連携	まちの学習材に気づき、自ら課題解決に取り組む学びの充実を図る。進んでまちの人とかかわり、自分事として生き方を探究する学習の充実を図る。	①地域企業の社会貢献活動と連携し、各学年の体験的学習を実施し、地域の潜在的な教育力を活用する。②各行事や学習、図書館等、PTAを中心としたボランティア活動や地域行事への参加を通して、子供たちが様々な大人と接する機会を増やす。③PTAと連携し、地域コーディネーターの育成を進める。
人材育成・組織運営	教職員の学校運営に関する提案を積極的に取り入れ、実践していくことを通して、共に誇りを持ち、一人ひとりが輝ける職員集団となるようにする。	①学年・ブロックでの協力体制を強化し、ミドルリーダーを育てる。②10年次教員をリーダーとしたメンターチームの活動を学校全体でバックアップし、若手教員の育成に努める。③危機管理意識を持ち続け、想像力を働かせて安全な学校施設維持や緊急事態対応能力を高める。
いじめへの対応	児童一人ひとりが受け入れられていると実感できる受容的な環境をつくる。また全ての児童の「教育を受ける権利」を保障するための支援を確実に実施する。	①「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場で活用する。②児童一人ひとりの状況についての記録を作成し、校長をリーダーに、担任や各学年教諭、児童支援専任教諭からなるチームによる支援を進める。

具体的取組

135	<160
158	<160
90	<160
165	<160
142	<160
142	<160
138	<160
126	<160
103	<160